

養液栽培トマトの量的施肥管理技術

養液栽培で一般に行われる培養液の濃度制御では、養分の過剰吸収や残留が生じる恐れがあり、効率的施肥や環境負荷の面で問題があります。

そこで、作物が必要とする時に必要量だけ与え、窒素、リン、カリウムの投入や排出を減らす量的施肥管理に取り組んでいますが、本年度は、培養液中の窒素、リン、カリウムを無駄なく吸収させる技術を検討しています。また、培養液にカルシウム、マグネシウムを追加施用し、果実糖度を向上させる技術についても検討する予定です。現在、3月下旬定植の半促成栽培を行っており、5月下旬から収穫を開始する予定です。



半促成栽培で順調に生育するトマト

ポンプで液を循環する湛液水耕